



船舶にかかる国際標準化等に関する アンケート結果（2021年度）



2021年9月30日
第34回標準部会

アンケートの実施概要

- ◆ 実施期間：2021年6月30日～8月10日
- ◆ 実施対象：当協会の賛助会員及び標準部会（分科会、WGを含む）約200社（注）
（注）団体賛助会員からその構成会員へ通知されているものは含まない。
- ◆ 回答数：59（昨年度：65、一昨年度：35）

設問	質問内容	設問	質問内容
1	ISO/IEC、JIS Fの新規提案要望	6	船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加
2	既存のISO/IEC、JIS Fへの改正要望	7	その他
3	新規原案の作成又は既存規格の改正作業に係る主導の可否（設問1.および2.に関連した設問）		
4	注目の新技術		
5	業務に役立つ規格		

設問1: ISO/IEC、JIS Fの新規提案要望

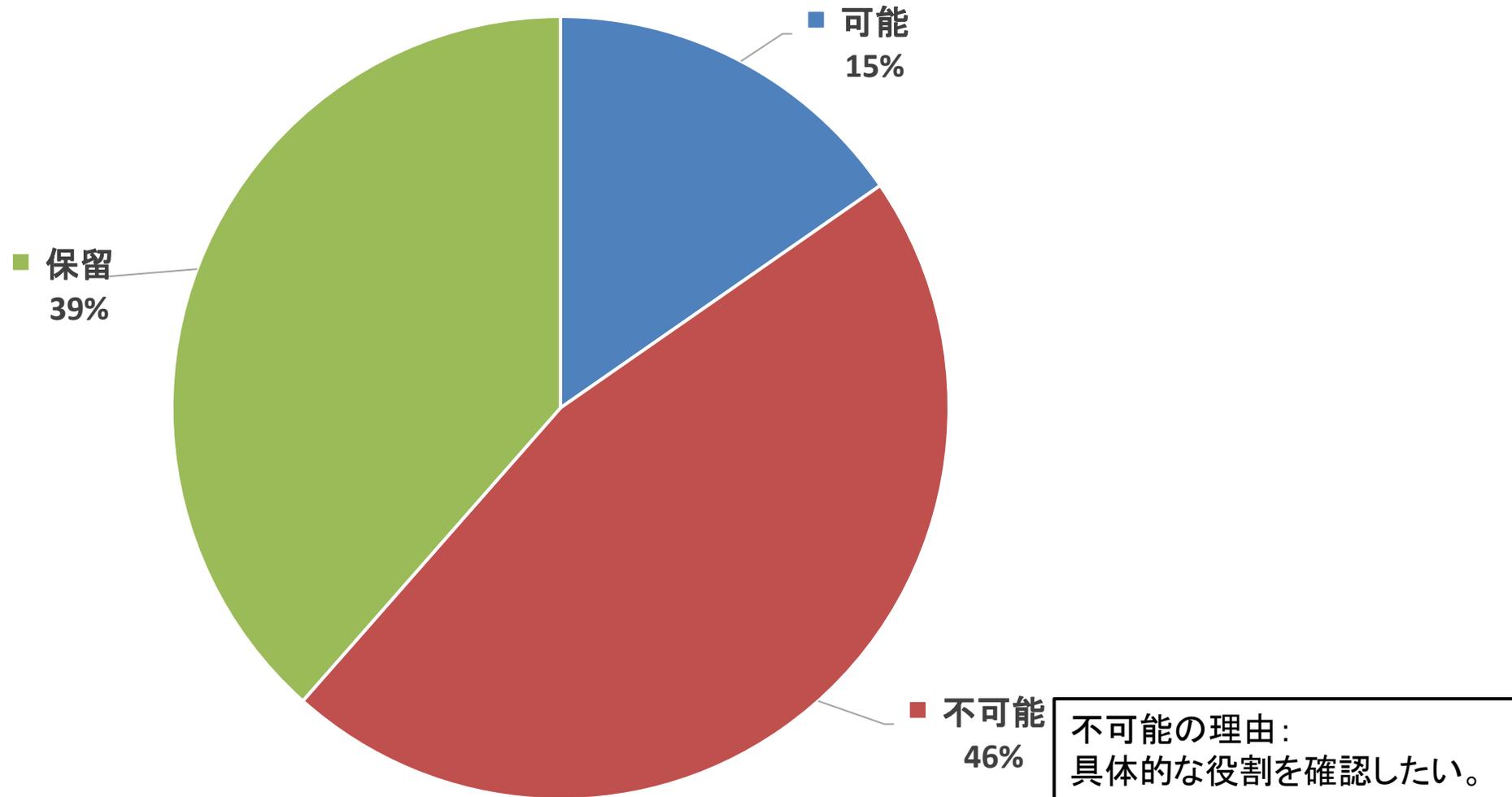
◆ 回答数(意見有) :3

回答者	製品・試験名	概要	対応
試験所	IEC 62742 (船用電気設備及び電子機器－電磁両立性－非鋼鉄船) のJIS化	国際規格が制定次第、JIS Fを作成する。	舟艇分科会・中小型造船工業会・日本マリン事業協会へ意見聴取の結果、このIEC規格が新規規格でもあり、同規格の利用実績および将来の利用予定が無いことが確認されたため、JIS F規格化は当面見送る。 (ご意見提出者了解)
船用メーカー	航海灯の常時点灯	航海灯の常時点灯により、昼間の安全航行を考慮。	航海灯の基準は海上衝突予防法で定められており、ご意見は法規に対するもので、標準化へのご意見ではないことを回答し、対応とした。 (ご意見提出者了解)
船用メーカー	鋳鋼製アンカーベルマウス	アンカー格納に支障のない交差を調査し、製作精度として規格化したい。	新規標準化項目として取り扱うか甲板機械及びぎ装分科会にて確認と検討中。 エンジニアリング会社等専門家による調査を要する。

- ◆ 設問2: 既存のISO/IEC、JIS Fへの改正要望
- ◆ 回答数(意見有): 12

回答者	製品名	概要	対応
造船所、船用メーカー	JIS F 2014 (フェアリーダ)の改正	<ul style="list-style-type: none"> ・ISOにも同様の規格があるが、JISの方が製品重量が重い。統一化したい。 ・船級が求めるSWL/DLについて、規格内に明示されておらず強度基準も異なっているため、都度の検証が必要になっている。 	甲板機械及びぎ装分科会にて今後検討。
造船所	以下、3規格の改正 <ul style="list-style-type: none"> ・JIS F 2017 (パナマチョック) ・JIS F 2053 (クローズドチョック) ・JIS F 2054 (係留チョック) 	チョックの曲率を示すD/d率がOCIMFのMooring Equipment Guidelinesの最新版の要求に合致していないため、合致するものに改正して頂きたい。	甲板機械及びぎ装分科会にて今後検討。対応国際規格の最新版では、D/d率に関連した規定が追加されているが、左記を満足しているか分科会で確認。最新のISOとの整合化の枠組みで分科会にて検討。
船主	ISO 21745 (電子レコードブック)の改訂	現状の規格だと高額になり普及の妨げになる可能性があるため、緩和の方向に持っていきたい。	航海分科会にて今後検討。要望の実現が可能かどうかをISO規格案作成に関する慣例の観点や船用メーカーの観点から、意見交換の場を設け、対応を検討予定。

- ◆ 設問3: 新規原案の作成又は既存規格の改正作業に係る主導の可否(設問1.および2.に関連した設問)
- ◆ 回答数(意見有): 13



◆ 設問4: 注目の新技術

◆ 回答数(意見有): 18

回答者	注目の新技術
造船所	代替燃料に関する技術、電化に関する技術
造船所	3Dスキャナ/プリンタ
造船所	アンモニアの臭い対策
造船所	燃料関連新技術、省エネ対策新技術
船主	OZT表示
団体	電動船
舟艇メーカー	バッテリーのみの電力で航行可能な船舶
船用メーカー	水素燃料の施設
船用メーカー	アンモニア燃焼技術
船用メーカー	液体水素運搬に係わる技術
船用メーカー	IMOのGHG削減戦略に対応可能な低炭素・ゼロ炭素燃料を使用するための要素技術、及びインフラ構築のための技術
船用メーカー	船舶の自律運航に関する規定
船用メーカー	脱炭素燃料、スマート SHIPPING
船用メーカー	水素の利用や輸送技術
船用メーカー	蓄電池の船内利用について AC負荷への給電など
船用メーカー	環境発電機器
船用メーカー	水素・アンモニア関連技術
船用メーカー	自律船に関わる推進システム及びその管理に関するルール

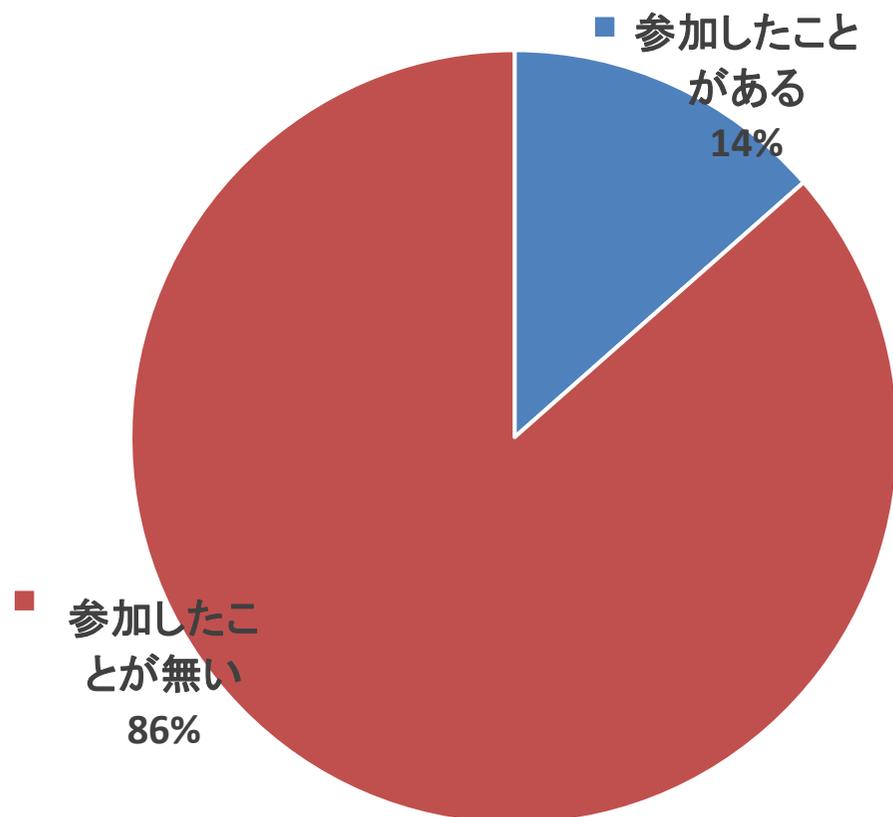
◆ 設問5: 業務に役立つ規格

◆ 回答数(意見有): 19

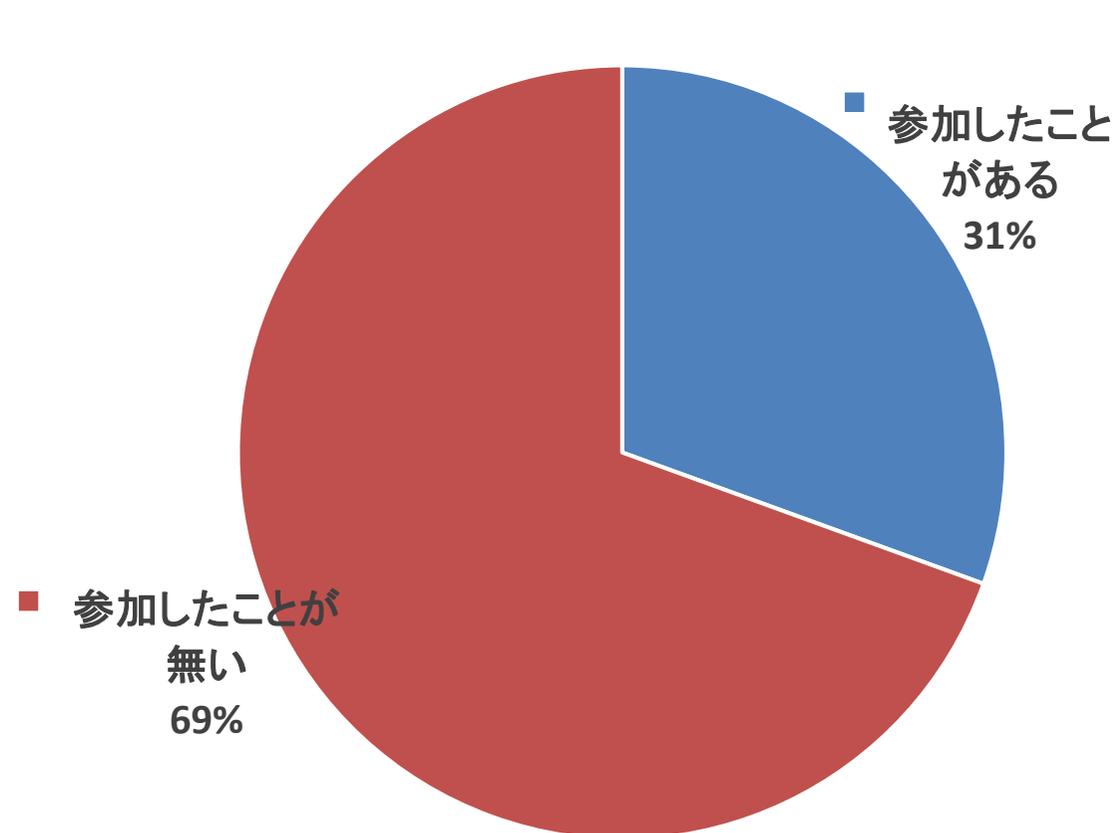
回答者	業務に役立つ規格
造船所	ISO & JISF(設計段階)
造船所	小径バルブ 及び 係留関連機器 (船舶で装備するバルブの発注時(JIS番号の指示によりメーカーにかかわらず同一性能(サイズ)のバルブの入手が可能)。係留関連機器については、JISにより強度保証をされているため、必要な強度に対しての係留機器の選定が容易。)
造船所	ほぼ全ての規格 (JIS規格品を採用することで船主/船級に説明する際に納得感が増し、受け入れてもらえ易い。)
造船所	係船金物(ボラード、フェアリーダー等)は船級規則に則った構造の確立により選定に役立っています(新規建造船の設計(係船装置図作成)業務の効率化)
造船所	JIS F 2001: 船舶及び海洋技術-ボラード(発注時、図面作成時)
試験所	IEC 60945, IEC 60092-504, IEC 60533及びそれらのJIS F版, JIS F 8008, JIS F 0808(船用電気機器の評価サービス)
船用メーカー	ISO 2372、ISO 10816など振動に関するもの(振動値について問合せのあったときの良否の判定基準)
船用メーカー	ISO(船舶安全設備の規格ISOに準拠した製品を製造)
船用メーカー	JIS F 機関・船体(受注、設計、製造、検査)
船用メーカー	JIS F 弁・フランジ関係(社内標準として採用)
船用メーカー	JIS F 2053 / 2054(SWLが明確になっており、船級の求める強度基準(降伏応力ベース)に合っているため簡単な換算で必要な条件の確認ができる)
船用メーカー	IEC 61162シリーズ、IEC 60945(IEC 61162シリーズは航海通信機器の共通プロトコル、フォーマットが定義されているため、異なるメーカーの機器間でのインターフェースが容易になっている。IEC 60945は船用機器の環境試験に有用である。)
船用メーカー	ISO19847/19848 (自社の船上サーバーや船内アプリケーションの開発)

◆ 設問6: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加 (1/2)

標準化研修への参加



標準化セミナーへの参加



◆ 設問6: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへの参加 (2/2)

◆ 回答数(意見有):16

回答者	研修及びセミナーへの希望
造船所	標準化を業界の競争力に活かす方法
造船所	ISOとJISのダブルスタンダードになっている場合の取り扱い方
造船所	新しく制定されたISOとJISの概要紹介
試験所	規格開発エキスパート講座（貴会での標準化に参加する後進を養成したい）
舟艇メーカー	標準化研修(現行の運営で十分)
船用メーカー	ビギナー向けセミナー
船用メーカー	具体的な活用方法や、標準化することによるメリットなど紹介
船用メーカー	乗船研修(実際の就航船)
船用メーカー	現行の運営で十分と考える
船用メーカー	戦略的活用方法等
船用メーカー	研修やセミナーではありませんが、規格案を持たれた方たちとのディスカッションの場があれば良い。規格化や製品開発、ビジネス創出に繋がると思う。
船用メーカー	防火窓の規格について

◆ 設問7: その他

◆ 回答数(意見有): 10

回答者	ご意見
造船所	設計・製造の実務では役に立つものと思います。欧州の様に、競争力確保に利用できるようになると、更に望ましいと思います。
造船所	今後の国際規則化及び規則改正に伴ったJIS化をして頂ければ幸甚です。
造船所	現状の活動の継続で良いと思います。
船主	標準化したい技術(OZT表示)はあるが、ECDISルールの範疇の技術だったりする。こういったケースにおいてISO・IECを通じて御協会が働きかけるような取り組みは出来ると良いと思っています。
団体	基準の統一
船用メーカー	ハッチカバー部会・業務委員会にて、以前、標準化を試みたが各メーカーの技術情報もあり標準化は困難であった。現状も変わらないと思います。
船用メーカー	研修会、セミナー情報を前広に連絡してほしい、Webセミナーが参加しやすい
船用メーカー	今後の成長が期待できない分野において、自社の負担が増える標準化への参加は企業として難しいと考える。
船用メーカー	アンケートは社内の意見を取り纏めて回答するので、メールで案内を頂く際に社内意見取り纏め用に電子ファイル(WordやExcel)を添付頂けたら嬉しいです。今回は手前の方で作成し、社内に配布を行いました。
船用メーカー	各船級協会の規格が閲覧できるような窓口があれば助かります。